

御結納のしおり



この度のご良縁、心からお慶び申し上げます。
ご両家の末永いご多幸をお祈りいたします。

結納は、婚礼を前にふたつの家の結びつきを祝い、互いに婚約という人生の門出を確認し合う素晴らしい習慣です。これから夫婦になるふたりが互いの家族を紹介しあい、ご両親に感謝する気持ちを表現する大切な儀式でもあります。

ご新郎家が主導し、丹精込めてお育て頂いたお嬢様を迎えるにあたり、ご新婦家に対する想いを伝える形が「ご結納品」です。

和やかな中に厳かさのある結納式になり、ご両家にとって、いつまでも幸せな、楽しい思い出になりますよう心からお祈り申し上げます。

このしおりは、その取り交わしの手助けになれば誠に幸いです。

結納金

元々関東では、結納金半返しの習わしがあります。最近では、お返しの仕方にはさまざまなお考えがあります。

金額は目録には記さず、金包の中包の表に金額を書き入れます。お返しとして、品物で差し上げる場合は、その品物名を目録に書き入れてください。

男性側→女性側 帯壹筋、 御帶料

女性側→男性側 御袴壹具、 御袴料

かつて、帯と袴は、女性・男性の道具として必ず贈られたもので、ご結納品の中心的な品物でした。現在は、「帯」「袴」と表記して、金子を贈るもる場合がほとんどです。

記念品は、身につける物を贈ることが一般的です。記念品として指輪や時計などを贈る場合は、別に白木台にのせ飾り、目録書には、優美和（ゆびわ）、登慶恵（とけい）などと書き加えます。



受書

受書はご結納品をいただく際に渡しする受領書で、ご結納品ではありません。受書を用意する場合は、ご両家とも用意することをお勧めします。いだくご結納品の目録書通りに書き、片木盆にのせて渡します。

本来、受書はお仲人様や使者の方が、ご両家を往復され際に、結納の大切なお品物の取り交わしの受領を確認するために用意されました。

親族書（家族書）

結納を取り交わす際に親族書（家族書）を取り交わす場合があります。それぞれの家族、親族の紹介をし、これから親戚としての円滑なお付き合いができるよう、ご両家が用意します。結婚式当日に親族紹介が行われますが、予め結納の際に交わしておくと便利です。

結納包み

ご結納品は、御風呂敷に包んで持参します。帰りはお相手が、その風呂敷に包んで、ご結納品を持ち帰ります。

結納当日の手順と口上

(仲人を立てない場合の一例)

—全員着座し挨拶

新郎父「この度は、○様と私どもの□に素晴らしいご良縁を頂戴いたしまして、誠に有難うございます。つきましては、本日、お日柄もよろしいので結納の儀を執り行わせていただきます。」

—新郎母が新婦に結納品を運ぶ。

新郎父「それは、□からの結納でございます。幾久しくお納めください。」

—新婦側が目録を確認する。

新婦父「ありがとうございます。幾久しくお受けいたします。」

—新婦母が結納品を元の場所に運ぶ。

—新婦母が新郎に結納品を運ぶ。

新婦父「それは、○からの結納でございます。幾久しくお納めください。」

—新郎側が目録を確認する。

新郎父「ありがとうございます。幾久しくお受けいたします。」

—新郎母が結納品を元の場所に運ぶ。

新婦父「こちらこそいろいろお世話になりました。今後とも末永くよろしくお願ひいたします。」

口上や手順にとらわれることなく、両家がこれから円滑な親戚付き合いを始め、お互いの理解と親睦を深めるため、心からお祝いすることが大切です。

上座

新郎結納品 新婦結納品

床の間



下座

